

2019年01月02日(水)【外為Lab】松田哲

タイトル:【G20後、豪ドル(AUD)が急落している】

昨年(2018年)11月末のG20が終了して以降、「豪ドル(AUD)」の下落が目立っている。

+++++

昨年(2018年)11月末のアルゼンチン開催のG20は、外国為替市場の参加者に注目されていた。

このG20のメインテーマは、貿易摩擦問題であり、特に、G20後の2018年12月1日(土曜日)の米中首脳会談で、何らかの合意があるのではないかと、といった期待感が、マーケット(外国為替市場・金融市場)にあった。

+++++

そして、確かに合意はあった。

この会談では、中国が貿易不均衡を是正する方向で、米国に譲歩する姿勢を見せたことで、米国が、2019年1月1日から発動を予定していた「2000億ドル相当の中国製品に対する関税の25%引き上げ」が、90日間先延ばしされた。

つまり、この米中首脳会談の結果としては、「米国が90日間の猶予期間を設ける」という合意だった。

合意の付帯条件としては、2019年1月からの追加関税の拡大に、90日間の猶予期間を設ける。ただし、中国は、米国の大豆などの農産物の輸入を増加させる。

90日以内に、中国の「強制的な技術移転、知的財産権侵害、サイバー攻撃」の改善に関して、米中間で合意がなされなければ、追加関税の拡大を実施する可能性がある。

+++++

上述の合意に反応して、週明け月曜日(2018年12月3日)の外国為替市場は、「豪ドル買い」となり、豪ドルは、対ドル、対円で、急上昇した。

2018年12月3日の豪ドル/米ドル(AUD/USD)は、高値0.7400ア라운드(正確には、0.7390-95水準)を付けた。

2018年12月3日の豪ドル/円(AUD/JPY)は、高値84.00ア라운드(正確には、83.85-90水準)を付けた。

+++++

しかし、その後の値動きを見ると、この日（2018年12月3日）をピーク（高値）にして、豪ドルは、対ドル、対円で、急落に転じている。

年明け（本日2019年1月2日）の豪ドル／米ドル（AUD/USD）は、概して、0.70 台前半程度に推移している。

対ドルは、この1カ月で、300ポイント以上の下落である。

年明け（本日2019年1月2日）の豪ドル／円（AUD/JPY）は、概して、76 円台後半程度に推移している。

対円は、この1カ月で、約7円の下落である。

+++++

もちろん、アルゼンチン開催のG20終了直後に、米国の要請に基づき、カナダが、中国ファーウェイCEOを逮捕した事件が起こり、米中関係が悪化したことも、大きな要因ではあろう。

しかし、中国ファーウェイの事件ばかりではなく、2018年12月1日（土曜日）の米中首脳会談での合意に対する評価が、「豪ドル下落の要因」と考えている。

+++++

つまり、米中首脳会談で、確かに合意はあったのだが、その合意の内容をよくよく考えると、単に問題を先延ばししただけに過ぎない、ということだ。

中国が、90日以内に、米国が納得する程の大幅な譲歩ができるとは、考えにくい。

結局、90日後に対立が鮮明になるだけ、もしくは、90日の期限が近づくにつれて、不安が拡大するだけ、そういうことではないか？

+++++

豪ドルの外国為替市場における評価は、米中の貿易問題によって、大きく上下している。

つまり、米中関係が良くなれば、「豪ドル」が買われ、悪くなれば、「豪ドル」が売られる、という図式だ。

+++++

（2019年01月02日東京時間16:20記述）